WeeK9月2週号からのおすすめ

産直 (例) 《歌麗言言(例)

からあげにチ キン南蛮にと たっぷり使え る1 kg

1kg

■Week表紙・28ページでご案内

青森・岩手県産の産直若鶏モモ肉徳 用(約3~4枚)規格です。

▲共同購入の商品案内「Week」(ウィーク)でのおすすめ商品です。店舗では取り扱いのない場合があります

しこが弱しま・フェニ5円

過去1年間にさかのぼって、 ご利用のあった商品に注文書 品名欄を色付けしてお知らせ します。ご注文の参考として ご覧ください





色付けするとこんなに便利

前に買ってる商品が

一目で分かるのね!



2019年 《8月4週号》 No.677



※利用登録商品のご利用がない週・お休みされた週は除く 利用登録商品を

さらに

◎詳しくは、センター、または 配達担当にお声がけください



※届いた日の納品書で値引きが確認できます

※なお利用登録商品は、色付け表示しません。下段の「利用登録商品」欄でお届け商品をご確認ください



1 1 1 配達無料

森県内で1週間に11,410食をお届けしています ※2019年7月26日時点

カロリー基準250Kcal 健康バランス食



ください!



塩分とカロリーを控えました。 栄養バランスの取れた食事を毎日続けられます。

78円 ^{集分長準} 税込価格516円 **2.5**g以了

お申し込み

お問合せは

週3日 蘇1,434円 **38 1,912**_円 週4日 ## 2,390 P 週5日

このお弁当のカロリー・塩分・アレルゲン

カロリー 244kcal 塩分 2.5g アレルゲン 卵 乳 小麦

※栄養成分の個は献立作成時の計算値であり、食材、調理状況により差異が生じる場合がありますので目安としてお考えください。

人気メニューお試しWeek

ご利用者に人気のあるメニューを試せる5日間 お届け期間: 9/30(月)~10/4(金) お申込み締め切り: 9/24 (火) *締め切り間際はお申し込みが集中しますので、 お早めにご連絡ください。

コープあおもり 0120-102-705 配食サービスセンター ■受付 月~金 /午前9時~午後6時

「子育でひろば」に近びに来てわ~」

「子育てひろば」はお母さんと子どもさんが一緒に参加する室内公園の ようなものです。お母さんと子どもさんがゆっくり過ごしたり、お母さんどう しがいろいろおしゃべりしたりする場です。申し込み不要。参加費無 料。お気軽にお越しください!



*青森·下北会場 10:00~12:00の開催 *八戸会場 10:00~11:30の開催

◆青森会場 毎月第1水曜日開催 本部 集会室(青森市)

25017-766-1614

毎月第3 火曜日開催 るいけ店2 F(八戸市) **5**0178-46-5457

毎月第4水曜日開催 むつセンター(むつ市) **25**0175-23-5370

組合員活動部 017-766-1635

◆弘前会場 お休みしています

★7月から、八戸会場が第3火曜日に変更となっています。弘前会場は、新和徳店オープン後のご案内となります。 ※風邪などでお休みしている方や、休園、休校、学級閉鎖などでお休みの方とそのご家族の方についても、念のため子 育てひろば参加をご遠慮して頂いております。ご理解とご協力をお願いします。 子育てひろば事務局

【シリーズ 第70回】

被災地はいま

みやぎ生協・コープふくしまか ら、宮城・福島のいま、をシリー ズでお伝えします

一 まち・住まい・コミュニティ ー

「多様なチャンネルを活用して、居場所を見つけられる街に」

- ■野蒜(のびる)駅の改札を出ると、広場の向こうに野蒜ケ丘の新しい街並み が広がります。津波で甚大な被害をうけた東松島市野蒜地区では、多くの世 帯が近くの山林を開いて造った高台へ集団移転しました。2017年10月には まちびらきが行なわれています。野蒜まちづくり協議会(以下まち協)は、住民 参加のまちづくりを目指し、野蒜ケ丘の3自治会や旧市街地の5自治会と協 力しながら、様々な事業に取り組んでいます。移転にあたって課題になったの がコミュニティ形成でした。まち協会長の菅原節郎さんは、「震災前のコミュニ ティを活かす形で移転したことや何度も話し合いを重ねたことで、"この街で この人たちと暮らしていくんだ。という気持ちが醸成された。移転後も自治会 ごとにイベントを開催し、それがコミュニティの活性化に役立っている」と話しま す。最近は、分譲地を買って移り住む若い世帯も増えています。一方災害公 営住宅や旧市街地を中心に高齢化も進んでいます。
- ■まち協副会長の山縣嘉恵さんは「イベントに参加できない人もいる。そうした 人々を含め、住民の地域での居場所づくりがまち協の役目になる」と言いま す。同じく副会長の佐賀剛さんも「地域全体のあり方を考え、若い世代が住み やすい街づくりや人材育成が大切になってくる」とこれからを見すえます。まち 協では、昨年度開催した地域づくり勉強会や若い母親のためのママカフェを、 今後も行う予定です。「ママカフェは市民センターの交流スペースを活用し、 お母さんが子どもを遊ばせながらお茶を飲んだり、保健師さんや保育士さんに 子育てについて相談したりする場と山縣さん。地域づくり勉強会も「野蒜の街 を知り、地域を担っていく人材を育てていくためのもの。今後も講師を呼





▲野蒜まちづくり協議会の皆さん。左から 副会長の佐賀剛さん、会長の菅原節郎 さん、副会長の山縣嘉恵さん



▲震災後、高台に移設された JR 仙石線 野蒜駅。広場のすぐ先に観光物産交流 センターや市民センターがあります

ぶなどして学ぶ機会をつくりたい」(佐賀さん)と積極的です。菅原さんは「すべての住民が自分の役割や出番がある ような街にしたい」との思いを抱いています。「そのためには人と人のつながりが数多くあった方がいい。自治会ごとの 交流だけでなく、ママカフェや勉強会、趣味のグループなど様々なチャンネルを活用して、自分の居場所を見つけ てほしい」。もともと住民同士の付き合いが活発だった野蒜地区には、コミュニティの芯となる助け合いの習慣が今も 根付いています。住民参加のまちづくりは、そうした故郷の財産を活かしながら、今後も進められていきます。

> ※2019年3月21日、みやぎ生協はコープふくしま・福島県南生協と組織合同しました。タイトルも「被災地のいま みやぎ生協・コ 一プふくしまから宮城・福島のいまをお伝えします」に変え、福島県の現状についてもお伝えしていくようにいたします。